

事業所名	グループホーム こばと
日付	平成18年12月7日 特定非営利活動法人
評価機関名	ライフサポート
評価調査員	在宅介護経験9年
評価調査員	ケアセンター介護支援専門員 経験5年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	誰しも人の一生の中で最も大切なステージの一つは最期の時期と思う。出来る限り自立した暮らしを願って作られたグループホーム。しかし、時間が経てば重度化し、本人や家族は勿論の事、職員の側も離れ難く思い、最終ステージを大切にしたいと願うことだろう。グループホームが当時目指したものを、ここの職員は遥かに乗り越えてしまっている。末期癌が入院しないでこのホームに居たいと願う。○さんや家族の気持を受け入れて、ぎりぎりまで桜を見て満足そうだった事、いい死を迎えさせてあげる事ができて職員の方も胸が一杯になった事等、「人間愛」に満ち溢れた話は、暗いニュースばかりでうんざりしてしまう今の世相の中、一服の清涼剤のようだ。 ただ、ただ、家族の立場としては頭が下がるだけだ。しかし、職員は利用者本人や家族からの声にしっかり耳を傾けようとしている。現状に満足しないで、より良いホームを目指して努力している。		

番号		できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人でできることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりにあわせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

講師

全体を通して(特に良いと思われる点など)

「いつも食事の準備を手伝っているんですか?」「したかったらするし、気が向かなかつたらしない」「毎日お風呂入ってるんですか?」「入りたかったら入るし、入りたくなかつたら入らない」「こんな利用者ののびやかさが良い。気ままさが良い。

「あんたも一緒に「ぼけ桜」を見に行こうや」「姥姥で呆けばあさんが「ぼけ桜」を見に行くかな」思った事を腹に留めないで、ぱっぱと口に出して笑い合う利用者が居て楽しい。おもしろくて、清々しい。

秋晴れの日差しの中、ホームを数歩出た土手に桜が数輪花開いている。旭川のせせらぎや山並の美しさが心を落着かせてくれる。毎日みんなの顔を見に来てくれると言う院長先生も桜見物。重度の状態の人も家族が付き添って日光浴。突然の訪問者の私達も、この幸せ感をたっぷりと味わった。満開の花を見に、また来て見たいと思った。

ホーム開設から3年というのに、ここでのターミナルケアを何人も経験してきている。家族と力を合わせて「あ、良かった!」と思える最期を迎える事ができた事実は、そして、その様子を語る職員達の涙は、このホームの素晴らしさを伝える何物にも変えがたい。重篤な状況の人も増え、介護が大変になってきても「今、何がしたいか? どうして欲しいか?」限りなく問いかけをしている。毎日のように来て付き添う家族もあり、利用者と家族、家族と職員、そして職員同士の心の絆は太くて強いものになってきている。「こんなグループホームもあるんだ」と思った。

特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした

利用者と家族と職員同士の絆や信頼関係は非常に強いと感じた。「本人や家族と共に創るホーム」として、地域に密着したケアのモデルを築いていてもらいたい。

子供会や町内会、その他地域の方々との交流は、行事の時など多数の参加があり盛会のようだ。今後地域との交流が広がり深まっていけば自ら認知症についての理解も深まるだろう。今後、認知症ケアの新しい時代にふさわしい地域のリーダー的存在になって頂きたいと願っている。

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	ブライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	「今までその人がずっとしてきた馴染みの役割が必ずしも良くはない、と分かった」と職員は言う。農業をしていた人で「もう草取りなんかしたくない」と言う人も居れば、草が気になり、いつも草取りをしてくれる人もある。目の前の利用者をよく見て、心に寄り添い、今どう思っているのかを大切にしようと努力している。先入観やマニュアルに捉われず、「その人の、今」に注視する事こそ、一人ひとりを尊重する前提になるのではないかと。職員がこのように、他から教えられた事ではなく、自分達の経験や相互の意見交換から一つ一つ方針を見出す自主性は、とても心強い。利用者の経験を十分把握した上で、今の力や思いを尊重しようとするケアは、当然、プライバシーの保護にもつながる。介護現場で、この自主性の芽を本当に大事に育てて頂きたい。		

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。 困難や迷う事に対して、みんなで精一杯考え立ち向かって心が一つになったターミナルケアの経験の意義は実に大きい。「自分達もやれたじゃないか」という自信と満足感は明日への仕事の踏み台になっている。どんなに良い最期を迎えられたとしても「あの時、もっと…」とか「これもしてあげたかった」と悔やむもの。この思いが、また、明日への仕事のテコにもなっている。 開設からそれ程経ていないホームだが、非常にレベルの高いグループホームではないかと思う。しかし、管理者、職員とも実に謙虚で「さらに良くなりたい」と言う向上心が強いようだ。今後も、問題発生を「良いチャンス」と捉え、今の謙虚さを保ち続けて邁進して下さい。これからの展開を楽しみにしています。		